

別紙1

北杜市環境保全事業実施報告書

団体名	やまなしどんぐりバンク
事業名	里山再生事業
事業概要 ※実施内容、事業期間等を記入してください。	公園・道路などに放置されたどんぐりを拾い、放棄耕作地に播種して育て2年苗を里山に還す作業を行った。苗畑の維持管理、植林、植林地の維持管理（下刈り・除伐等）を実施、秋にはどんぐり拾い、3月まで養生して苗床に播種した、3月には植樹祭を実施した。また年2回「どんぐり通信」を発行して一般への周知を図った。期間は4月1日～3月31日とした
備考	※事業実施に関する資料（写真等）を添付してください。

1 収入の部

内 訳	決 算 額
他の補助金・助成金	—
参加料	15000
寄付金・協賛金	—
その他	—
小 計(B)	15000
自己負担金	404934 439934
合計	454934

2. 支出の部

(単位：円)

内 訳	決 算 額
報償費	268000
消耗品費	28739
食糧費	26781
燃料費	12109
印刷製本費	91000
通信事業費	8488
保険料	1500
備品購入費	18317
補助対象経費	
合計 (A)	454934

※ 収入の合計と支出の合計は一致させること  
補助金交付額(G)

293,000円

$G = (A - B) \times 2/3$  ただし、補助金交付決定額以下



暑いですね! よく雨が降りますね!!!!

# どんぐり通信 No.20

発行日: 令和4年9月30日  
発行者: やまなしどんぐりバンク  
代表: 明石益夫  
電話: 0551-42-1006  
所在地: 〒408-0105  
山梨県北杜市須玉町  
東向 2231 多麻 15-2

子どもたち  
集まれ!!

## 毎年恒例! どんぐり拾いイベント

いっぱい  
落ちてるよ!



トロコ列車でGO!

どんぐりを拾って、苗を育てて、山に植えて、森を再生  
するお手伝いをしてみませんか? 今年のどんぐりは、昨年  
が豊作でしたので裏年になりそうです。拾えるくらいに  
は落ちそうですので、子どもたちには十分楽しんでもら  
えそうです!!



2022年 10月1日(土)

「森や動物の不思議なお話し」

橘 敏雄先生

(東京農業大学客員教授・(株)応用生物代表)

会場 白州尾白の森 名水公園べるが

2022年 10月23日(日)

「森の環境改善のお話し」

黒岩 成雄先生

(自然農園運営、環境改善施工と講座主催)

会場 明野町 浅尾の森

お申し込み・お問合せ ▶ [aka.satoyama@rainbow.plala.or.jp](mailto:aka.satoyama@rainbow.plala.or.jp)

### 夏の苗畑では

今年の夏は異常に暑かったですね。雨の多さも異常です  
ね。おかげさまで白州町横手の苗畑の苗の生育は大変に  
よく、5月に発芽した苗はすで30cmを超える苗もあり  
ます。苗以上にすごいのは、苗の発育の障害となる雑草  
の生育状況です。苗の発芽とともに始めた雑草の草むし  
りはすでに3回目となり、まだまだ草むしりは続きます。  
寒くなるまで???

### 夏の植林地では

すでに8年を超える多くの植林地でも、下刈りの有無に  
よって様々で、3年前に植林して、7月に下刈りした山  
でも、雑草が植樹と同じくらいに伸び、植樹を圧倒する  
勢いです。今年の気候は6・7月に高温の日が多く、雨  
も十分に降ったので、その頃羽化する蚊やセミが少ない  
ように感じました。異常気象なのでしょうね。

### 冬の終わりは種まきと植林です

冬は畑をゆっくり休ませます。年が明けて3月は畑の  
耕作とともに苗床を造り、地中に養生していた苗を掘り  
出し苗床に播種します。また2年苗を掘り出し山に還し  
ます(植林)。

どんぐりが芽を吹いた  
夏の苗床...



### やまなしどんぐりバンクからのお知らせ

「どんぐり通信 No.20」をお届けいたします。このどんぐり通信は、これまでどんぐりを預託してくれた方、  
イベントに参加してくれた方、里山再生に関心のある方などにお届けしております。また北杜市内の図書館・  
各地案内所などに常置してあります。皆様のご意見ご感想ご要望をいただければ幸いです。  
やまなしどんぐりバンク 代表: 明石益夫 Email ▶ [aka.satoyama@rainbow.plala.or.jp](mailto:aka.satoyama@rainbow.plala.or.jp)



## どんぐり コラム

前回（どんぐり通信 No.19）に掲載した篠原先生のお話の続きです。先生は東京大学と政策研究大学院大学の名誉教授で土木工学・景観工学の大家です。私たちの里山再生には特段の関心を持っておられます。

# ドンダリの森をもっと豊かに!!【II】

東京大学名誉教授・政策研究大学院大学名誉教授  
篠原 修

### 【三内丸山古墳】

弘前のダムの仕事をする様になって、評判の高かった三内丸山古墳に行ってみた。ここはかなり大胆な復元がされていて、住居も半地下の掘り込みとなっていた。報道されていて皆がよく見ているのは、木材を高く組み上げている、鐘楼という見張り台というかの構築物であろう。僕はそれはさっさと済まして、家の中を覗き込み、敷地内をウロウロと歩き回った。どんな木が植えてあるかに興味があったから。日本の家には大抵が庭がついていて、そこには平安時代の貴族の家や、江戸時代の武士の屋敷の様な「見る庭」ではなく、実のなる樹木が植えられている「実用の庭」だった。結婚するまで住んでいた親の家には、裏手の出入口の脇に柿の木があり、庭の真ん中には柘榴が植えてあった。この家は多摩川の南の畑だった処で、駅まで歩く道の脇にはまだまだ柿が植えられていた。ということは家を建てる前から、その柿の木はあったのだと思う。一步外に出て南武線という多摩川沿いの鉄道に乗ると、その沿線は柿、梨の畑が延々と続くのだった。かの「スジ鉄とノリ鉄」の達人、宮脇俊三の本を読むと、北から南まで鉄道の車窓には常に柿の木と赤い柿があったと言う。彼に言わずと、「柿は日本の国果」であるとなるのだった。これは渋柿も含めてのことで、彼が車窓に見たのも干柿が多かったのだろう。いつからかは判然としないが、日本の庶民は年柄年中柿を食べていたのだろう。かの有名な句「柿食えば 鐘がなるなり 法隆寺」は、近代俳句の創始者、正岡子規の作であることは誰もが知っているよう。

### 【栗の木】

三内丸山に柿の木はなかった。だが、びっくりしたことに、栗の木があったのだ。ダムの仕事で溪流を遡って行くと、目立つ様な枝を持つ木がある。あれはなんですかと、地元の人に聞くと、「あれは沢ぐるみですよ」という答えが返ってくる。こんなふうに見える木の実を取って食してみれば、美味しいか、不味いかは一目瞭然、それを放っておくような先祖ではなかったろう。すぐに食える様に家の傍に植えたはずだろう。柿の木は脆くて、登っちゃダメだと、親や近所の大人には何回も言われたものだった。これに対して、栗は実もうまいし、幹も役に立つ重要な木だった。ともかく、真っ直ぐで固いのだ。公共事業に詳しい人はすぐに、電柱でしようと言うだろう。景観デザインの仕事で一緒した吉本ポールは電柱製造から出発した信州の会社だったが、材料調達に昔の陸奥、岩手県からのクリの木だったと聞いた。それから忘れてはならないのは、鉄道の枕木で今はコンクリートに置き換わってしまったが、これもクリの木。確かめはしなかったが、見張り台の木は栗だったのではないかと。栗という木はどちらかと言うと、北の方の木ではないか。縄文時代には大いにはびこっていたに違いない。それでなければ、三内丸山の地に復元されはしないだろう。

### 【豊かな国の里山に】

ここまで来れば、僕が明石さんに何を伝えたいかの、検討はつくでしょう。日本は植物については豊かな国なのです。何もどんぐりばかりにこだわることはないのでは。食べてうまい栗の木も混ぜては如何ですか。実がなる木が多くなれば、それを目当てに昆虫は飛んでくる。カブトムシやトンボなどなど。これは子供には面白い。何せ木は動かないけれど、昆虫は飛んで動くから、追っかけるだけでも面白い。柿でも勿論、結構。特に子規や漱石が好きの人にはいいでしょう。子規が読んだ句は、日清戦争から命から返って病院から退院し、奈良で「ああ、俺は生きている」と実感した折の、漱石に送った句なのでした。どんぐりを晒して、すり潰して、湯掻いて食べるのを基本とするにしても、栗も柿も、場合によっては地元推薦の果実も植えて、自分達の庭の様な所にするのがお勧め。それが小さな庭ではなく、食事会もできる皆んなの里山なのだろうと思う。

何せ、焚き火をしたり、それで果実を焼いたり、煮たり、炙ったりの食事会なら植樹や雑草取りだけではない、参加意欲が湧く行事のなるのでは、と言うのが都会に住んでいる素人からの応援メッセージです。

栗林；来年播種します▶





植林から育林へ・・・・・・・・!!!!!!

# どんぐり通信

No.21

発行日：令和5年3月31日  
発行者：やまなしどんぐりバンク  
代表：明石益夫  
電話：090-5562-5345  
所在地：〒408-0105  
山梨県北杜市須玉町  
東向2231多麻15-2

活動  
報告

## 3月です！ 苗畑の活動が始まりました

3月19日には2年苗を山に還す植樹祭が開催されました。白州町横手、雑木林の藪掃除の跡地に、子供たちの手によって、子供たちとともに元気に育つことを祈念して約200本の苗を植えました。

里山の早春の気配に包まれ、子供たちの元気な声が響く中、スコップで大きな穴が掘られ苗木が植えられていました。

また、植樹祭で山に還された苗木を掘削した苗畑の後は、トラクターで耕作され苗床を造り、再びどんぐりを播種し、次代の苗を育てます。



## 今年のイベントの予定！

4月 黒戸山財産区 播種活度

10月 どんぐり拾い イベント

5月 植林、芽吹き イベント

11~2月 どんぐり養生 イベント

9月 下刈 & 自然再生 イベント (月1回程度)

3月 植樹祭

今年も「やまなしどんぐりバンク」では1年を通して様々なイベントなどを実施します。中でも「植林から育林へ」の段階に入りつつある過去に植林した山々では、すでに20カ所を超える場所にMa x 5メートルを超える木々が育ちつつあり、林床では雑草との戦いが待っています。タラノ木他様々な木や草が光を求めて元気に伸び植林木を圧倒します。これらから必要な木や草、不要な木や草を選別し、創出する森のイメージに合わせた管理(下刈り・除伐等)を行います。近年では伐採などで重機を多用することから、土壌が圧迫され地中環境が悪化しており、地中環境の改善が元気な森づくりの観点から重要な課題となっており、今年度からその対応も同時に実施します。



植樹後3年目の山林



今年の植樹祭に使われる2年苗

## やまなしどんぐりバンクからのお知らせ

「どんぐり通信No.21」をお届けいたします。このどんぐり通信は「やまなしどんぐりバンク」にどんぐりを預託してくれた皆様、イベントに参加された方、里山再生に関心のある皆様にお届けしております。また北杜市内の図書館・観光案内所等に常置しております。皆様のご意見・ご感想・ご要望などをいただければ幸いです。

やまなしどんぐりバンク 代表：明石益夫 Email▶[aka.satoyama@rainbow.plala.or.jp](mailto:aka.satoyama@rainbow.plala.or.jp)





## どんぐり コラム

里山再生に一步踏み込みます。今号のどんぐりコラムは、自然再生を実践中の黒岩成雄先生です。先生は長野県富士見町で長年自然農を営み、周辺の里山とともに自然再生への熱い思いを実践している方です。

## 慈しみの森

自然農園経営・環境再生士 黒岩 成雄



すべての存在があるがまにそこに在る。自分の存在がここにいることを許されている。少しずつ大きな悦びが沸き上がってきて、思わず「ありがとう」と口から言葉が溢れてくる。

そんな森に出会いたくないですか？

今この時代に生きる私達は、どんな森を創造してきたのでしょうか？  
過去に生きた御先祖様の続きをいきる私達は、御先祖様の意志を感じているのでしょうか？

皆さんにとって本当に気持ちの良い森とはどんな森でしょうか？

森の様子は季節や気候によって様々な表情をみせますが、心地が良いつまでもそこにいたいと思うような森はどんな森でしょうか？

一步足を踏み入れたら、優しく包み込んでくれるような空気、気配、匂い、音。さまざまな森の住人の息づかいが感じられる。水のせせらぎがどこか遠くから聞こえてきて優しく静かに受け入れてくれる。

なんとも言えない満たされた感覚。目に見えない存在が受け入れてくれている。

そんな森に出会ったことはありますか？私達の心のなかにずっと残っている、森と共にあることによる安らぎの感覚は、母親の胎内いるような感覚に近いかもしれません。

健やかにある森は、木々の枝葉の隙間から淡く太陽の光が降り注ぎ、ところどころにある岩は苔むして大地と一体の呼吸のなかにある。



今は、皆がどこかで懂れて林業の仕事の門をたたきますが、大抵はいまの森の仕事にすっかりして去ってゆく。今の人と森との関わり方はどこか間違っているのかもしれない。

答えを見つけるためにそこにとどまるには、大変な情熱とエネルギーがいります。それでもそこにとどまることができれば道は見えてくるでしょう。人間が関わりながらも、幾世代を越えて慈しみの森は創造できる。  
そう信じて森と関わっていきませんか？

かつて人は森と共に本当に豊かに暮らしていたに違いないのですから。心の中の慈しみの森を創造しましょう。



事業実施風景

播種後の苗畑（4月）



植林地（4月）



苗畑（芽吹き後の草むしり；5月）



下刈後の植林地（植林後3年；7月）



植樹祭の風景（3月）



植樹祭の風景（3月）

